

## 第2期

# 越知町教育振興基本計画

平成31年度～令和5年度

## 【越知町教育大綱】



平成31年4月1日策定

越知町教育委員会

## はじめに

教育は、人をつくり、未来をつくる希望です。

これからの社会を展望すると、自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら、新たな価値を創造する人材の育成が個人の目指すべき姿として求められます。

また、社会の目指すべき姿としては、一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現、社会(地域・国・世界)の持続可能な成長・発展とされています。

これからの教育に求められることは、超スマート社会(Society5.0)の実現に向けた技術革新が進展するなか「人生100年時代」を豊かに生きていくためには、「人づくり革命」、「生産性革命」の一環として、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上が必要です。

また、教育を通して生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組むことが求められています。

国の第3期教育振興基本計画には、今後の教育政策に関する基本的な方針として、5つの方針が示されています。

- 1 夢や志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する。
- 2 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する。
- 3 生涯学び、活躍できる環境を整える。
- 4 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する。
- 5 教育政策推進のための基盤を整備する。

以上の国の方向性を参酌し、高知県教育委員会の第2期教育振興基本計画をベースとして、本町の教育課題を解決するとともに、学校、家庭、地域、行政が一体となって、子供を育てるまち、生涯学び続けることのできるまちづくりを推進し、一層の教育の充実と向上を目指します。

平成31年3月

越知町教育委員会

# 目次

はじめに	1
------	---

## 第1章 越知町のあらまし

1 越知町全図	3
2 位置及び自然条件	3
3 沿革	4

## 第2章 策定の趣旨

1 越知町教育振興基本計画の位置づけ	4
2 教育大綱と基本計画との関係	5
3 計画期間	5
4 点検と評価（基本計画の進捗管理）	5

## 第3章 越知町の教育等の現状と課題

### 第1部 学校教育

1 減少する児童・生徒数	6
2 学力の状況	7
3 体力の状況	8～9
4 生活状況	10～11

### 第2部 社会教育

1 越知町の人口動向等	12
2 家庭教育に関する調査	13～16

## 第4章 教育ビジョン

### 第1部 学校教育

1 基本理念	17
2 基本方針	17
3 目指す子ども像	17

### 第2部 社会教育

1 基本理念	18
2 基本方針	18
3 目指すひとづくり	18

## 第5章 取組みの方向性

1 取組みの方向性	19～20
2 施策の基本方向	21

第6章 施策の実施計画	22～31
-------------	-------

# 第1章 越知町のあらまし

## 1 越知町全図



## 2 位置及び自然条件

本町は、高知県のほぼ中央、仁淀川の中流域に位置し、北緯 33 度 32 分、東経 133 度 15 分、面積は、111.95km<sup>2</sup>です。高知市から西方約 32km の距離にあり、町域は東西 15.2km、南北 16.6km で南北に細長く伸びています。

総面積の 84%は山林で、宅地や農地の割合はわずか 5%にとどまっています。町の周囲は標高 300m～1,000m の石鎚山系の山々が連なり、その間を主流仁淀川が西から東へと蛇行しています。山岳としては、牧野富太郎博士で有名な植物の宝庫、県立自然公園である横倉山（標高 774m）があり、横倉山周辺は約 4 億 3 千年前の日本でも最古の古い地層の一つとされています。

気候は、比較的温暖で、年平均気温は 17.2℃、最高気温は 36.0℃、最低気温は、-3.1℃を記録しています。冬季の降雪は少ないですが、年間平均降水量は 2,625.5mm、年間最大降水量は、4,383.0mmで、日本国内でも多い地域に属します。最大日雨量は、平成 10 年の 628.5mm（時間雨量 129.5mm）が記録されています。

※気象については、高知地方気象台の平成元年から平成 21 年の間の気象データによるものです。

### 3 沿 革

明治11年越知村として誕生し、明治中期までは水運の中継地として栄えてきました。昭和29年町村合併促進法に基づき、越知町は隣接の大桐村、横畠村と合併、同年佐川町大字南ノ川、佐之国、峯の一部、長者村大字長者の一部、吾川郡明治村、佐川町山室、翌年には佐川町大字柴尾、宮地、浅尾、南片岡を編入して新しい越知町として発足し、今日に至っています。

## 第2章 策定の趣旨

### 1 越知町教育振興基本計画の位置づけ

この第2期越知町教育振興基本計画(以下「基本計画」という。)は、越知町教育委員会の教育政策を総合的かつ計画的に推進するため、教育基本法(平成18年法律第120号)第17条第2項の規定に基づき、本町における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるものです。

平成26年4月策定(平成27年4月一部改訂)の越知町教育振興基本計画に基づく取組の成果や課題を踏まえ、保育・幼児教育、子育て環境、学校教育、生涯学習(社会教育)、にかかる教育施策全般とします。この基本計画に基づき、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を担いつつ、連携して本町の人づくりのため、社会全体で学びを育む教育環境の整備・充実に取り組みます。

※参考

教育基本法

(教育振興基本計画)

第17条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のため施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

教育基本法(平成18年12月22日施行)

国	教育振興基本計画	平成20年度～平成24年度
	第2期教育振興基本計画	平成25年度～平成29年度
	第3期期教育振興基本計画	平成30年度～平成34年度

県	高知県教育振興基本計画	平成24年度～平成27年度
	高知県教育振興基本計画重点プラン	平成24年度～平成27年度
	第2期高知県教育振興基本計画	平成28年度～平成31年度

## 2 教育大綱と基本計画との関係

この基本計画は、平成 31 年 3 月 28 日に開催された越知町総合教育会議において、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 第 1 項の規定に基づく大綱として位置づけられました。

## 3 計画期間

この基本計画は、平成 31 年度を初年度とする 5 年間(平成 31 年度から平成 35 年度)とします。なお、期間中であっても、様々な状況の変化により見直しの必要性が生じた場合は、適宜、計画の見直しを行うこととします。

## 4 点検と評価（基本計画の進捗管理）

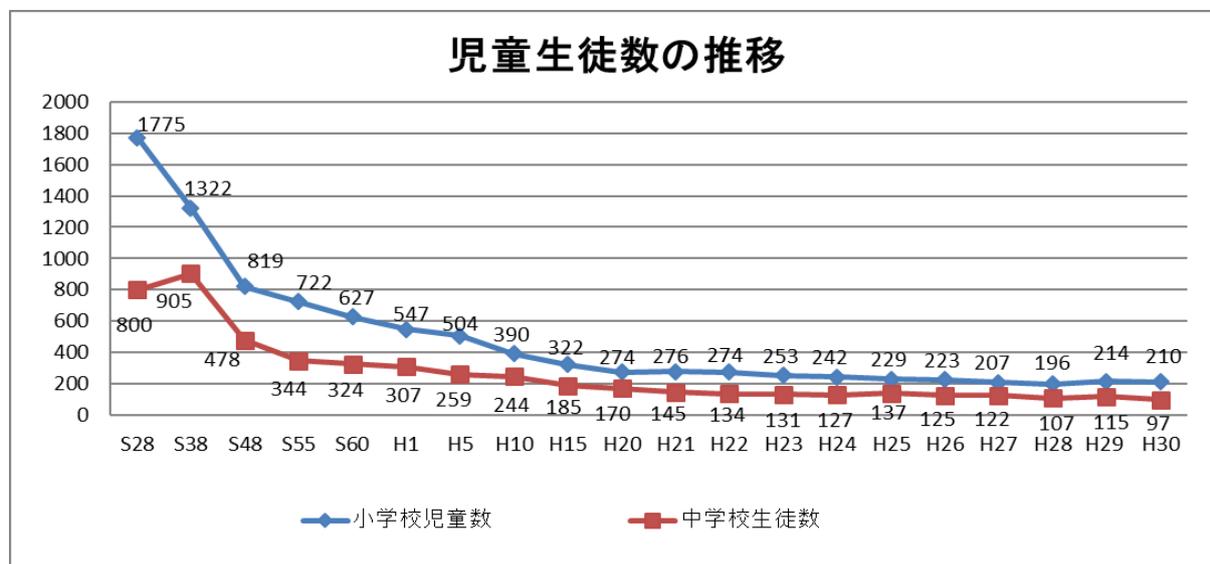
基本計画に掲げた施策の進捗状況等については、マネジメントサイクル(PDCAサイクル：計画→実行→評価→改善)に基づき、現状の施策、活動の実績を分析評価し、その中から課題や改善すべき点を把握して次の施策に生かし基本理念の実現を目指します。

なお、計画の実施過程においては、経済・社会情勢の大きな変化や国・県の制度改革など教育を取り巻く状況の変化が予想されます。設定した目標を達成していくために、重要な事項に取り組む必要が生じた場合は、教育委員会で審議し総合教育会議に諮り、必要に応じて施策の見直しを随時行います。

## 第3章 越知町の教育等の現状と課題

### 第1部 学校教育

#### 1 減少する児童・生徒数



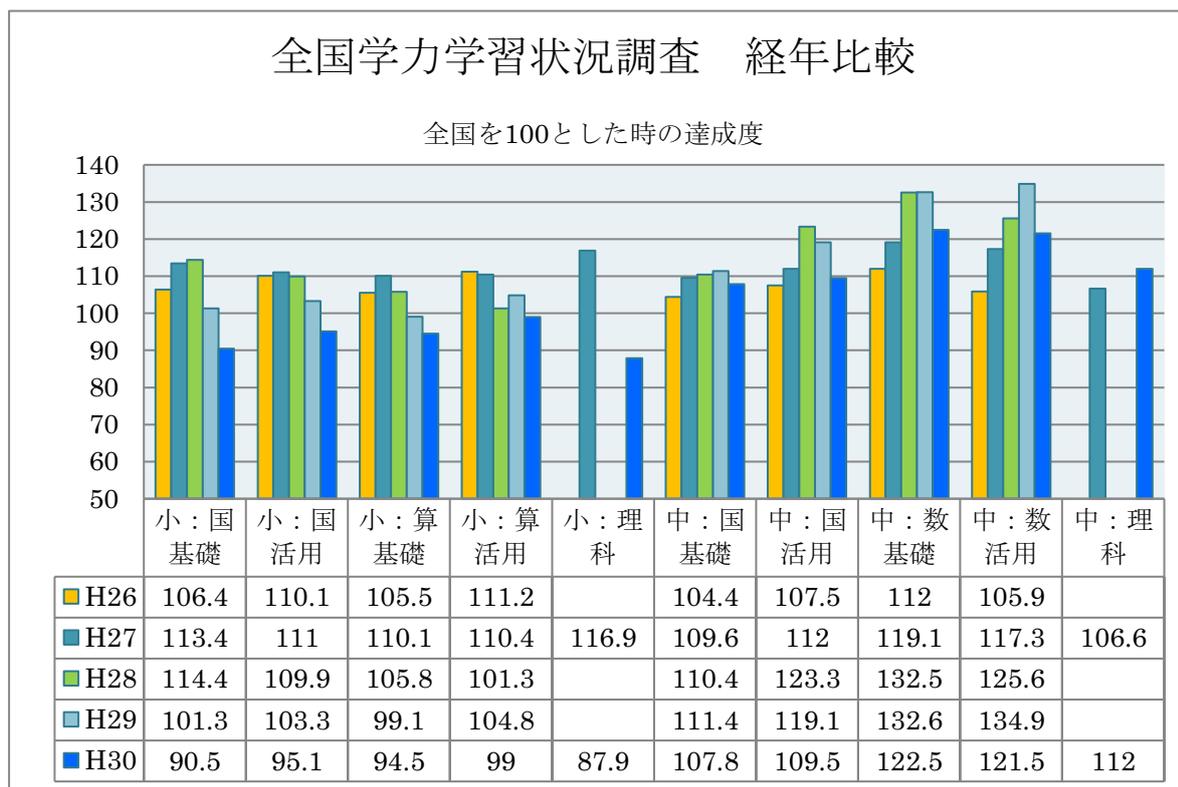
本町では、児童生徒数が緩やかに減少しつつあり、かつては小学校6校、中学校は2校あったものが、現在、小学校1校、中学校1校となっています。とりわけ山間部では、子どもが一人もいなくなった地域もあり、かつて地域と共にあった教育環境が、現在は失われつつある状況です。

また、学校の規模が小さくなったことで、「知」の分野においては、子どもの一人一人に目が行き届き、主体的な学びを手厚い学習環境のもとで行うことができます。「徳」の分野では、自己肯定感や規範意識の弱さが見られます。子どもたち自身が自分自身や仲間を大切に感じられること、日頃から「ものごと」や「普遍的なことから」に対して深く考える機会を作り意識付けや行動化につなげることで、自分の「考え」や「思い」を自分の言葉で他者の理解を得られるよう伝えられること（言語活用能力の育成）などが求められます。学校内外で様々な経験の機会が少なくなっており、体験を通して学ぶことや集団の中で切磋琢磨する機会が減少しています。このような背景から「知」の分野の土台となる「徳」、「体」の分野の強化、社会性の育成などの取組が必要となってきています。

これからの社会を見据えて「答えのない問い」に対して自ら考え、仲間とともに学び合う課題探究学習（課題解決学習）などに取り組んでいます。また、越知町の豊かな自然を活かした環境教育や地域での体験型学習を学校と地域の双方向で実施することにより、地域に開かれた学校として、地域住民や保護者等にも参加を促し、子どもたちが地域に学び、地域の発展のためにどのようなことができるか主体的に考え、未来の越知町のために取り組んでいきます。また、地域の方々には学校と力を合わせて子どもたちを支え、地域と共に学びあえる場の創出に取り組んでいく必要があります。

地域で育ち、世界に羽ばたく子どもを育成するため、国際的な視野を持ち、世界に通用する人材を育成し、異文化との相互交流・相互理解を深め、多様性を認め合い、共生していくことが求められています。豊かな感性や語学力、コミュニケーション能力を身に付けるためにも外国語指導助手や国際交流員、越知町国際交流協会の活動等を通じて、他国・他市町村との交流の機会を創出し、町域や国境を超えた取組を展開していくことも大切であると考えます。

## 2 学力の状況



全国学力・学習状況調査においては、年々、課題は改善されつつありますが、活用問題には、例年、弱さが見られる傾向がありました。活用問題に触れる機会を増やす授業づくりに取り組んだ結果、小学校・中学校ともに、基礎力・活用力ともに、すべての領域で全国レベルを超える水準になってきました。しかし、平成30年度においては、中学校は、全国を大きく上回るものの、小学校においては県・全国平均を下回る結果になりました。どの子供にもしっかりと授業で基礎・基本を身に付けるとともに、継続的な反復学習の徹底、加力学習や長期・短期の課題の見直しをしています。また、日々の授業や単元が新学習指導要領を具現化されたものであるか、新学習指導要領が体現化された全国学力・学習状況調査や県の学力調査を分析し、授業に基礎基本から活用問題まで学習に反映されているかという意識を持ち、継続的、発展的、横断的に授業を創っていく必要があります。

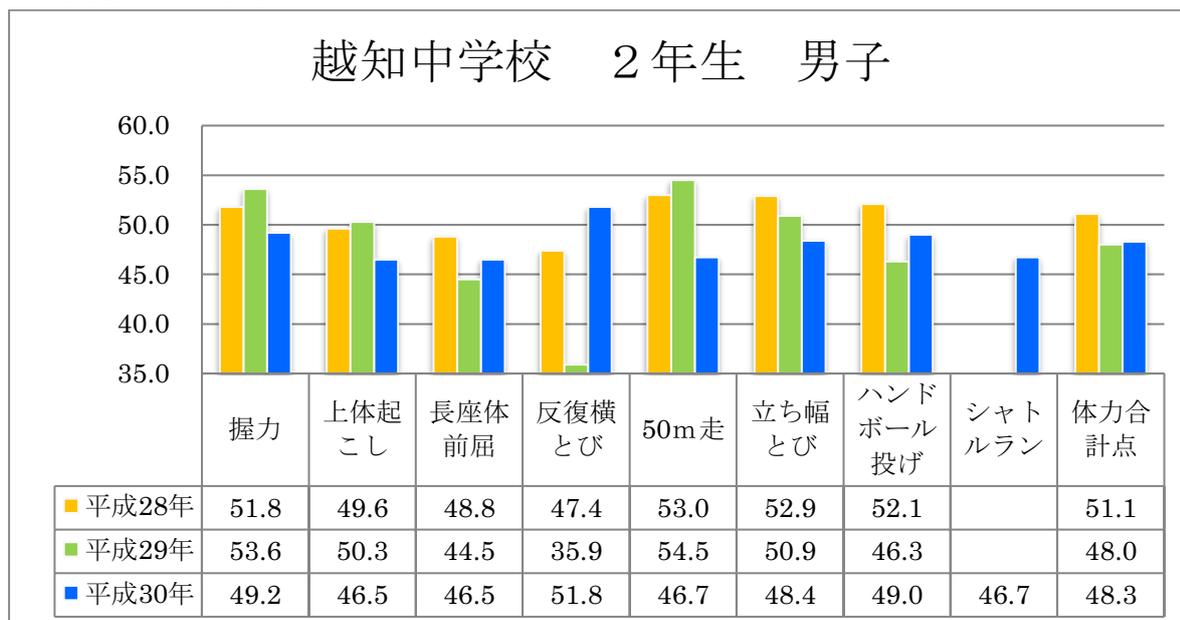
こういったことから、基礎基本を徹底させる取組、活用力を身に付けさせるための授業の工夫・改善の継続が必要であると考えます。基礎基本の徹底を図るとともに、学び合いを中心とした課題解決型の学習を、越知小中学校の研究の柱に据え、全教員で取り組むことにより、思考力・判断力・表現力を育て、総合的な活用力を高めることを目指します。

また、もうひとつには、学校全体として組織的に取り組む体制づくりに重点を置きます。学年による格差や、個人の格差、教師の指導力の格差を生まないために、学校全体として、確実に学力を身に付けさせるためのシステムを構築します。

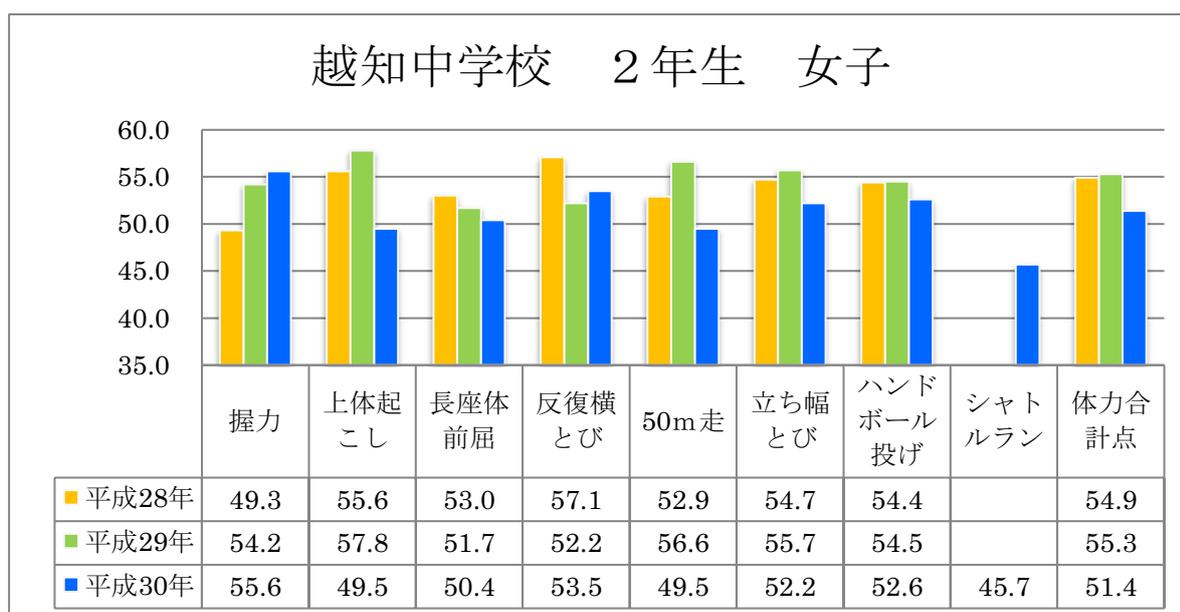
### 3 体力の状況

年々改善傾向にあります。全国と比べると、まだ弱い項目も見られます。生涯を健康に生きるための基礎となる体力を培うためには、学校・家庭・地域が一体となって、児童生徒の生活習慣や運動習慣を改善することが必要です。また、好きな運動や得意な運動を見つけれられるよう、様々な運動の機会を設け、運動に親しむ資質や能力を身につけることも大切です。そして、教育活動全体を通して、運動や健康の知識・技能を身につけさせるとともに、運動やスポーツの楽しさ・充実感・達成感を感じさせる必要があります。

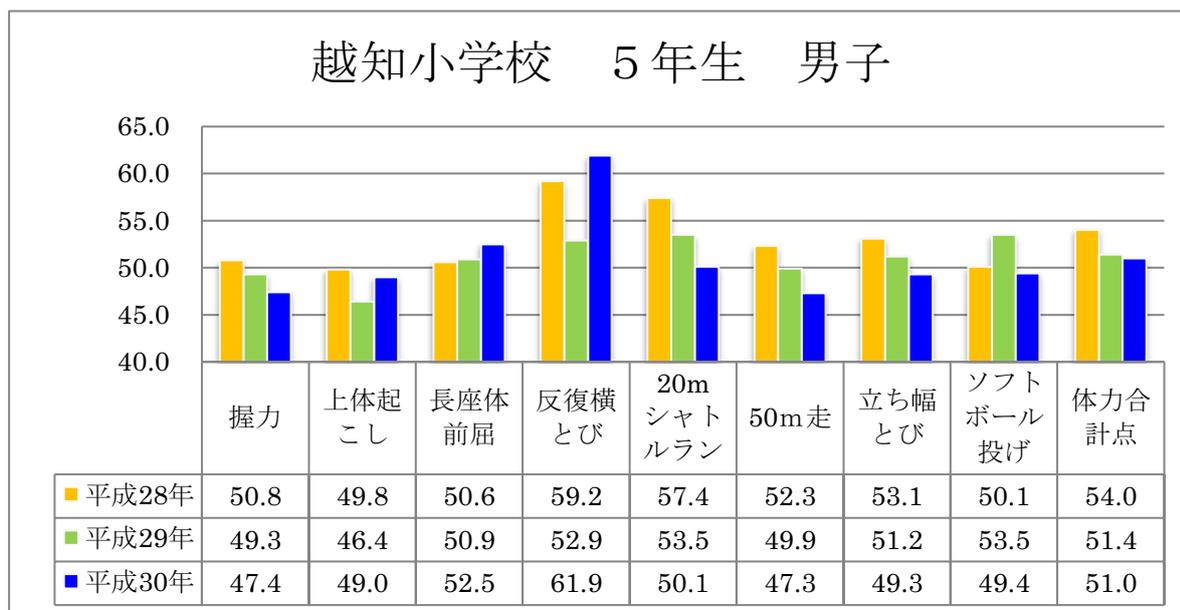
\*全国を 50.0 とする



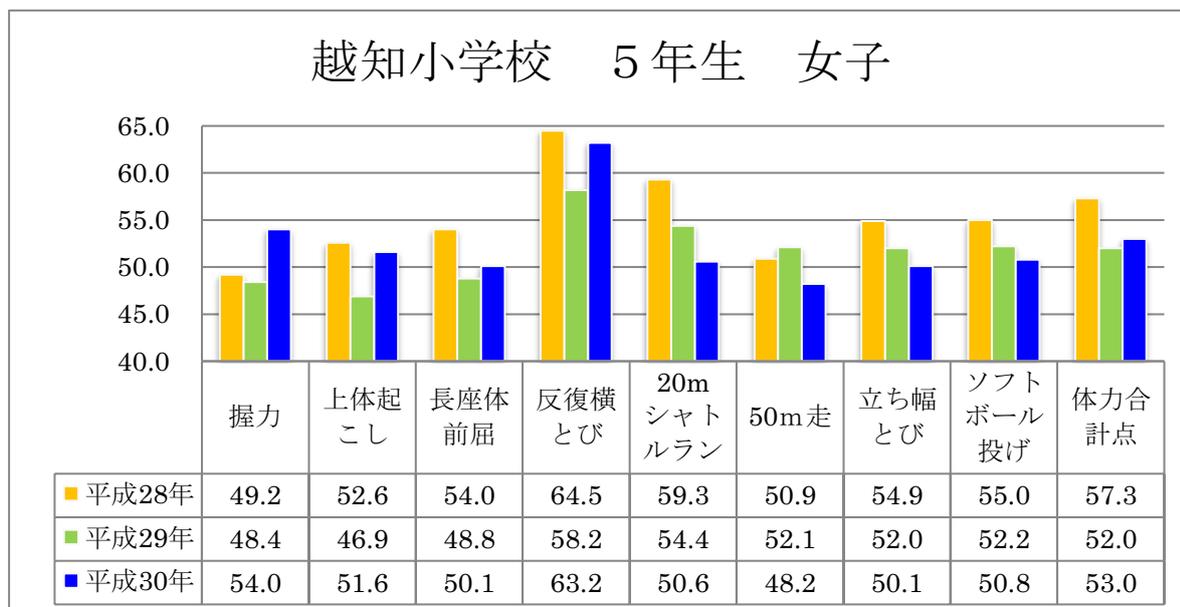
\*全国を 50.0 とする



\*全国を50.0とする



\*全国を50.0とする



この結果を受け、本町では、児童生徒の運動機会拡充に向けた取組を支援するとともに、子どもの運動習慣・食習慣・生活習慣の改善を総合的に推進し、体力向上に向けた取組を継続的に進めていきます。また、中学校運動部の活動の充実に向けた支援を行います。

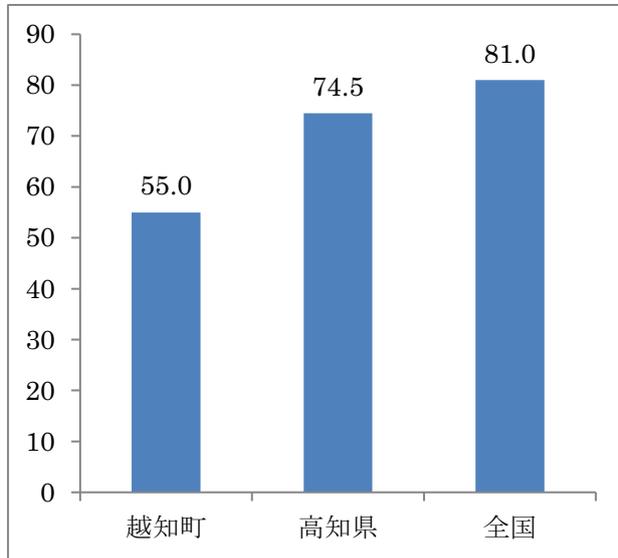
さらに、生涯を通じてスポーツに親しみ、体力向上が図れるよう、町内での体育的行事や大会等の取組を継続して実施し、地域で子どもたちが積極的に参加できる場を提供していきます。

## 4 生活状況 平成30年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙

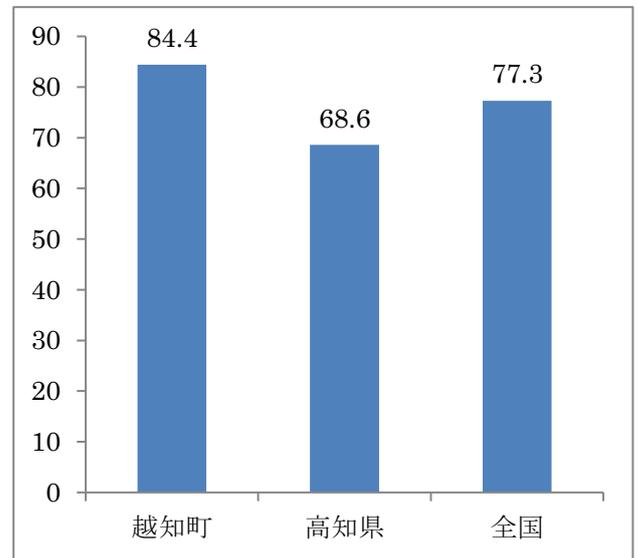
① 放課後に何をしておすることが多いですか

\*家でテレビやビデオ・DVD、ゲーム、インターネットをされている割合 (%)

小学校6年生



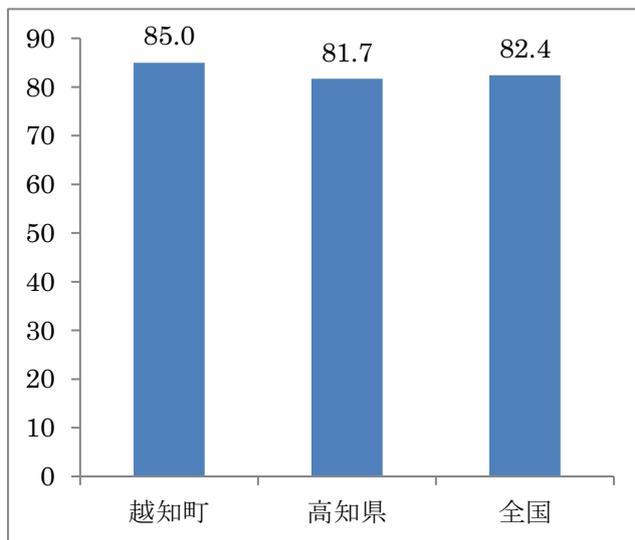
中学校3年生



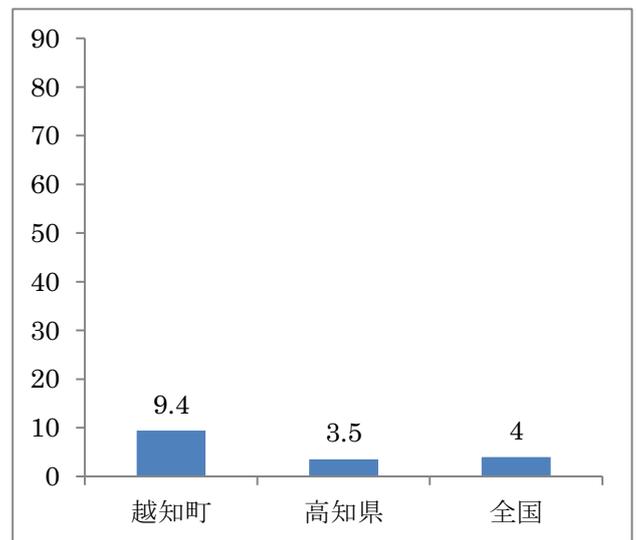
②週末に何をしておすることが多いですか

\*家でテレビやビデオ・DVD、ゲーム、インターネットをされている割合 (%)

小学校6年生



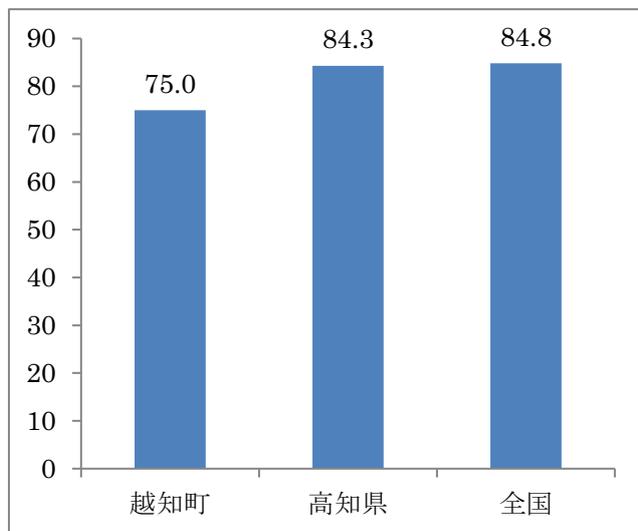
中学校3年生



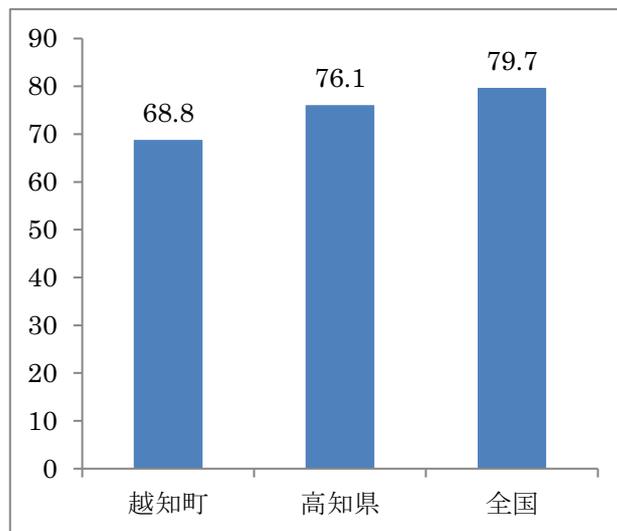
## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙より

③毎日、朝食を食べていますか。

小学校 6 年生



中学校 3 年生



子どもたちがすこやかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。しかしながら、成長期の子どものために必要不可欠な基本的な生活習慣の乱れが見られます。こうした生活習慣の乱れは、学習意欲や体力・気力の低下の要因の一つとして指摘されています。また、子どもたちの情報モラルをめぐる問題や人間関係の希薄化、実体験の不足といった影の部分も明らかになっています。

これらの課題の要因としては、昨今の大人のライフスタイルが子どもの生活リズムに大きく影響していることが考えられます。したがって、生活習慣は単なる個々の家庭や子どもの問題であると見過ごすのではなく、これを社会全体の問題として捉え、地域社会が一丸となり取組を推進していくことが重要です。

本町では、子どもがもつ生活課題について、地域への啓発活動を推し進めるとともに、生活状況調査などを通して、学校と家庭をつなぎ、基本的な生活習慣の改善を図っていきます。

また、食育、保健体育、総合的な学習の時間等の学習活動を通じて、生涯にわたる自己管理能力を身に付けた子どもの育成を目指します。

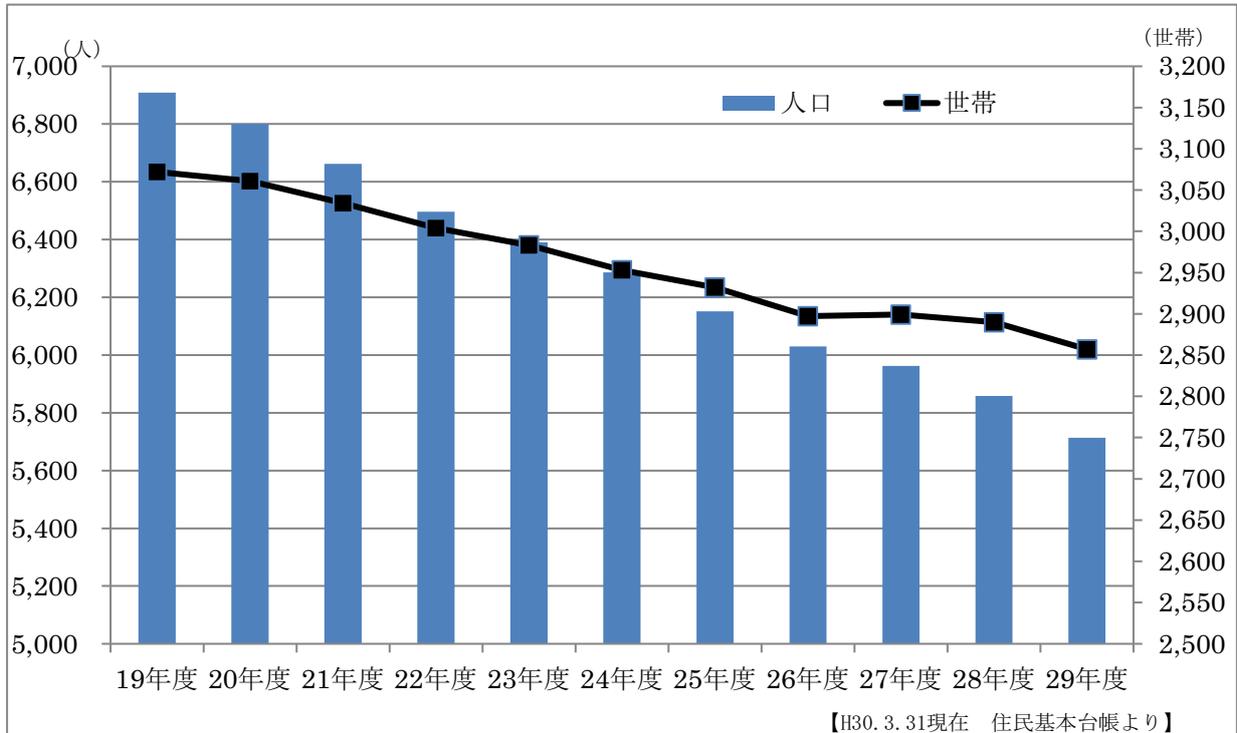
注 上記のグラフは、平成 30 年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果に基づく状況です。対象者は、小学校 6 年生と中学校 3 年生となっています。

13 ページの毎日、朝食を食べていますかは、家庭教育アンケートの結果です。回答者は保護者となっています。また、対象者も世帯の子ども全員となっており、児童生徒と保護者の回答には差が見られます。

## 第2部 社会教育

### 1 越知町の人口動向等

人口・世帯の動向



年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
人口	6,909	6,801	6,662	6,496	6,390	6,286	6,151	6,030	5,962	5,858	5,714
増減		▲ 108	▲ 139	▲ 166	▲ 106	▲ 104	▲ 135	▲ 121	▲ 68	▲ 104	▲ 144
世帯	3,072	3,061	3,034	3,004	2,983	2,953	2,932	2,897	2,899	2,890	2,857
増減		▲ 11	▲ 27	▲ 30	▲ 21	▲ 30	▲ 21	▲ 35	2	▲ 9	▲ 33
1世帯あたり	2.25	2.22	2.20	2.16	2.14	2.13	2.10	2.08	2.06	2.03	2.00

越知町の人口は昭和30年以降の高度成長期に都市部への人口流出が激しく、急激な人口減少となりました。過去10年における越知町の人口推移をみると、平成19年度末で6,909人であったものが、平成29年度末には5,714人と、10年で1,195人も人口が減少しています。

人口構成は、昭和55年当時は人口9,052人に対し、年少人口1,663人(18.4%)、生産人口5,808人(64.2%)、65歳以上の老年人口1,663人(17.5%)でしたが、その後、急速に高齢化が進展し、平成30年3月末時点は、年少人口476人(8.4%)、生産人口2,664人(46.6%)、老年人口2,574人(45.1%)となっており、生産人口割合と老年人口割合がほぼ同じ割合になってきています。

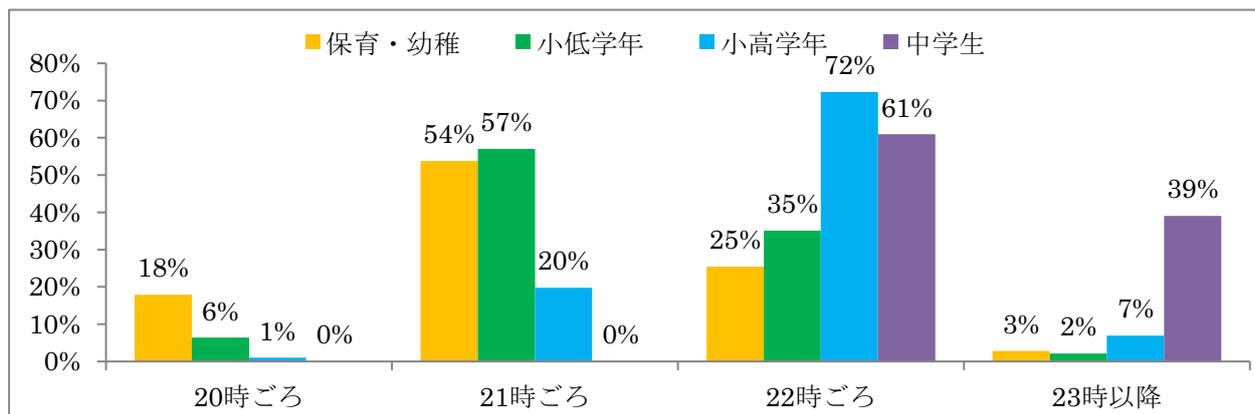
数年後には、更なる少子化、高齢化が予測される他、予想のつかない社会環境の変化により、価値観の多様化、生活意識の変化等が目まぐるしく進化することが予測されます。

こうした状況の中、これらの変化に対応するためには、より一層、生涯学習を進行していく事が求められると共に、魅力と活力のある地域づくりを進めるためには、地域住民の学習活動の活発化が重要であり、社会教育の果たす役割は大きくなります。

現状の社会教育の在り方を踏まえると共に、今後の社会教育行政の在り方を考え、越知町に合った社会教育事業を推進していく必要があります。

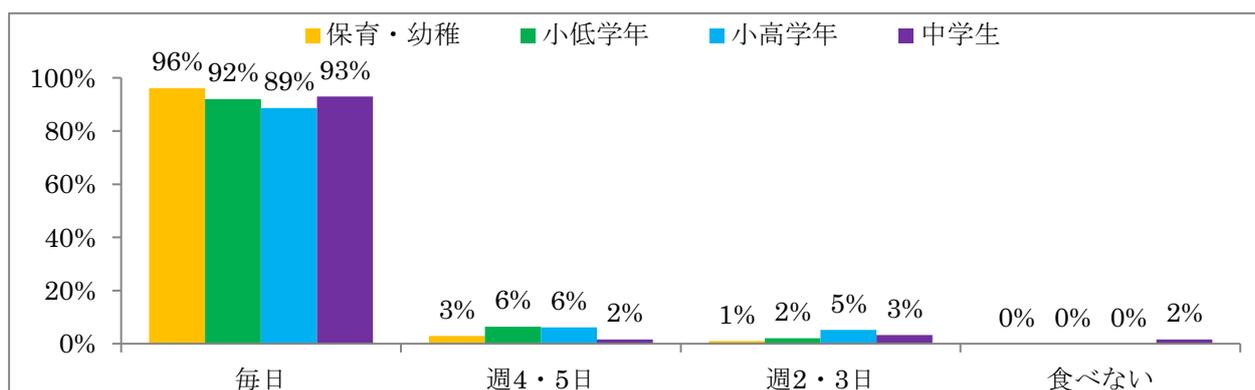
## 2 平成30年度家庭教育に関する調査（家庭教育アンケートより 保護者回答）

◎何時ごろに寝ていますか。



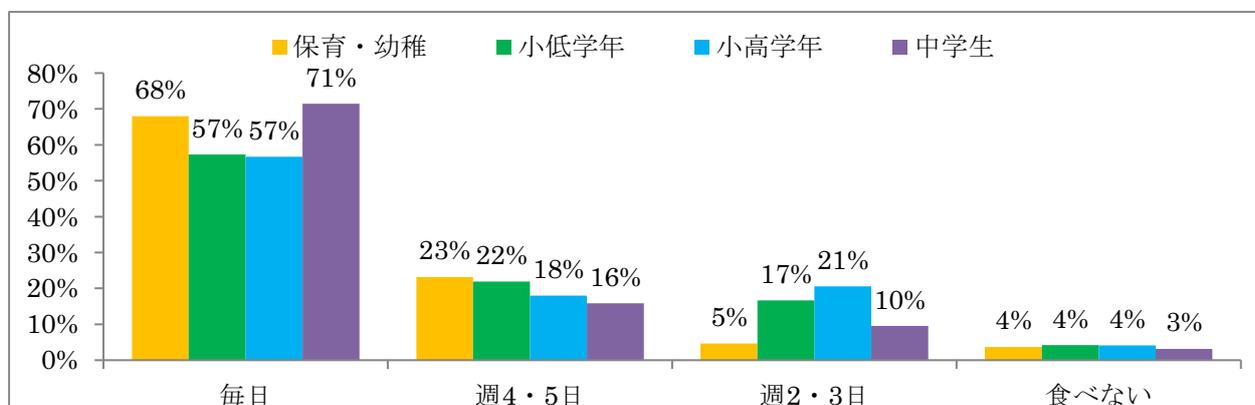
小学校高学年、中学生になると、22時以降に就寝する子ども達が80%ほどになります。就学時前、小学校低学年においても30%程の子ども達が22時以降に就寝しており、睡眠時間の不足が課題です。

◎毎日、朝食を食べていますか。



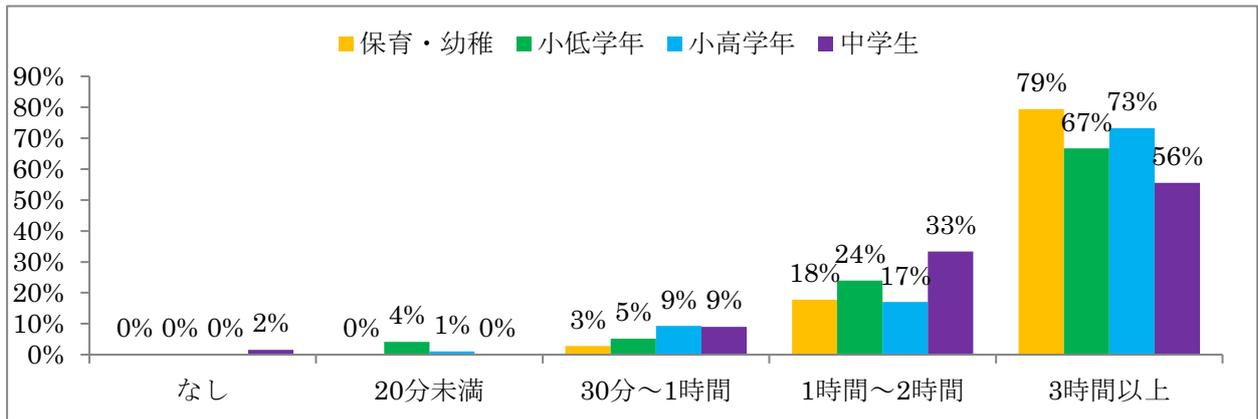
90%以上の子ども達が毎朝、朝食を食べていますが、そうでない子どももいます。基本的な生活習慣の乱れは、学習意欲や体力の低下、気力の低下の要因の一つとして指摘されています。

◎夕食は、できるだけ家族そろって食べていますか。



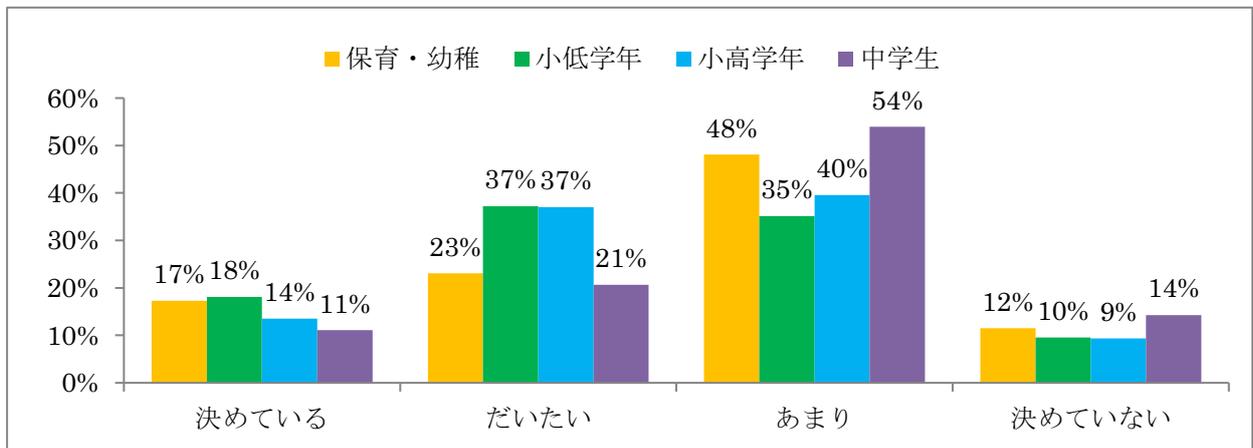
夫婦共働きやひとり親家庭、遠距離通勤、子どもの習い事など、家族揃って夕食をとる時間を確保する事も難しくなっています。

◎平日、お子さんと過ごす時間はどれくらいですか。



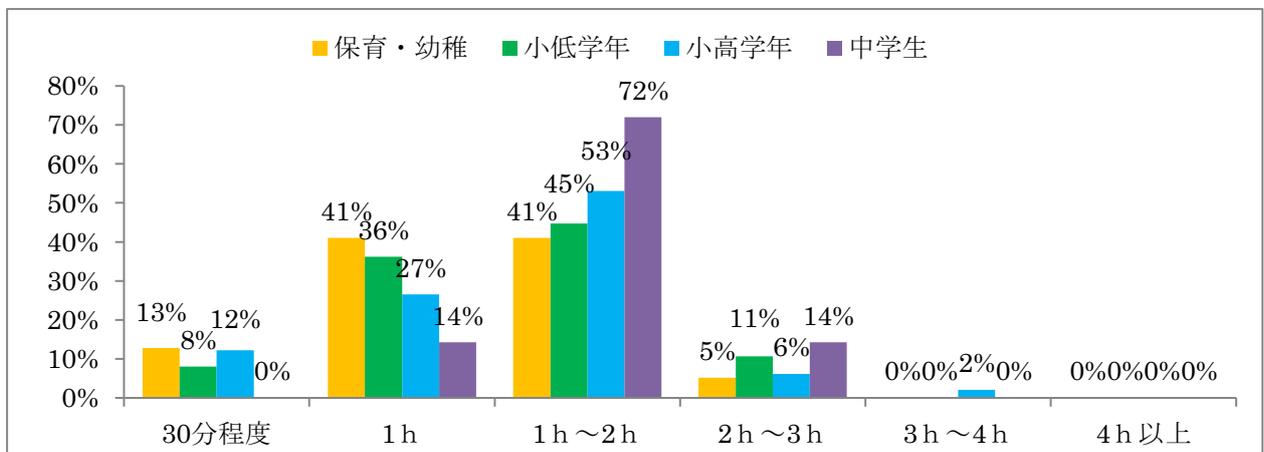
親も子どもの忙しく、ゆっくり時間をかけて過ごす事が難しい状況ですが、コミュニケーションの質を高める工夫を行い、短い時間でも子どもへの思いやりのある関わりが、子どもにとって心安らぐ時間の確保につながります。

◎テレビ・ゲーム・スマホをする際、時間を決めていますか。



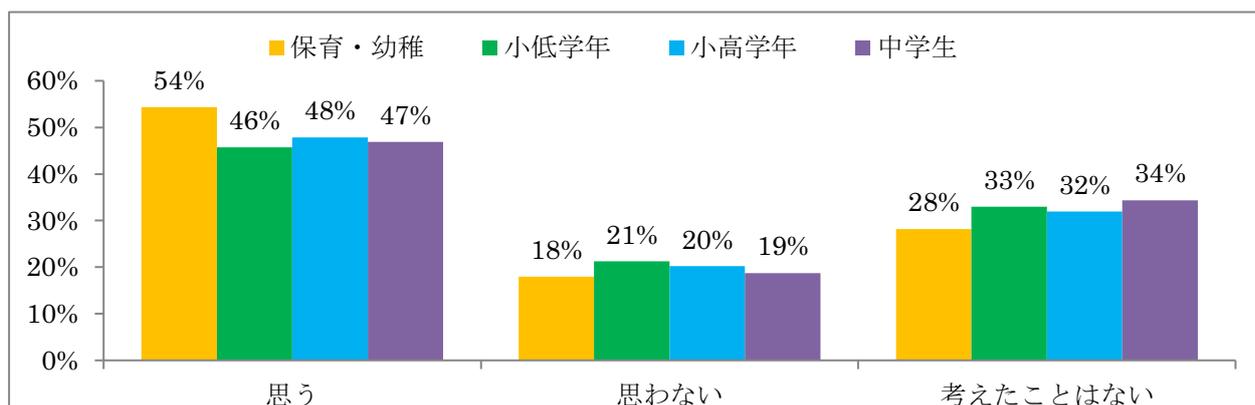
20%程の家庭が、テレビやゲームの時間を子どもと決めて家族のルールとして取り組んでいますが、大半は時間制限等のルールがない事が伺えます。

◎決めている、だいたい決めている場合の時間はどれくらいですか。



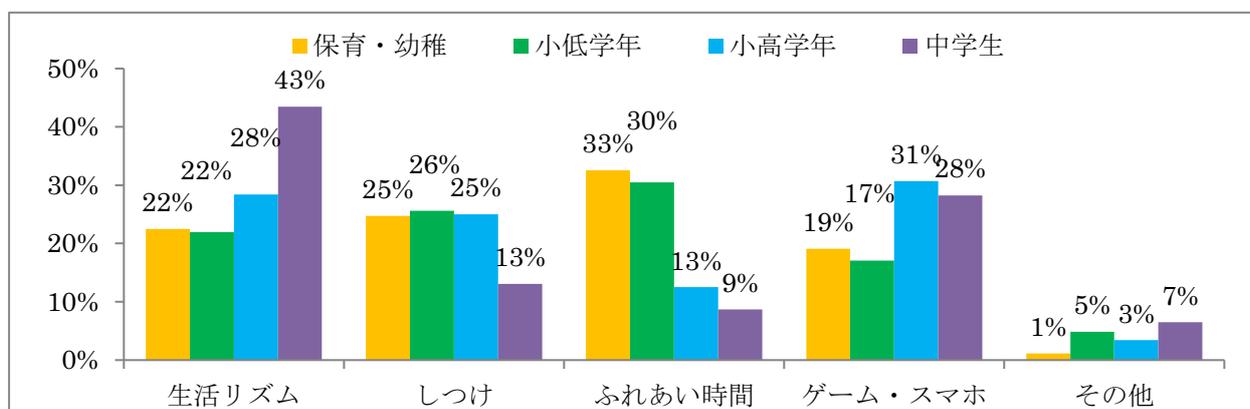
ルールを決めて取り組んでいる場合、1時間～2時間のルールが多い事が伺えます。ルールがない場合、夜遅くにスマホやゲームをし、睡眠不足や気力の低下など基本的な生活習慣が乱れるなど、現代社会の大きな課題となっています。

◎家庭で、家庭教育について今後改善したいと思いますか。



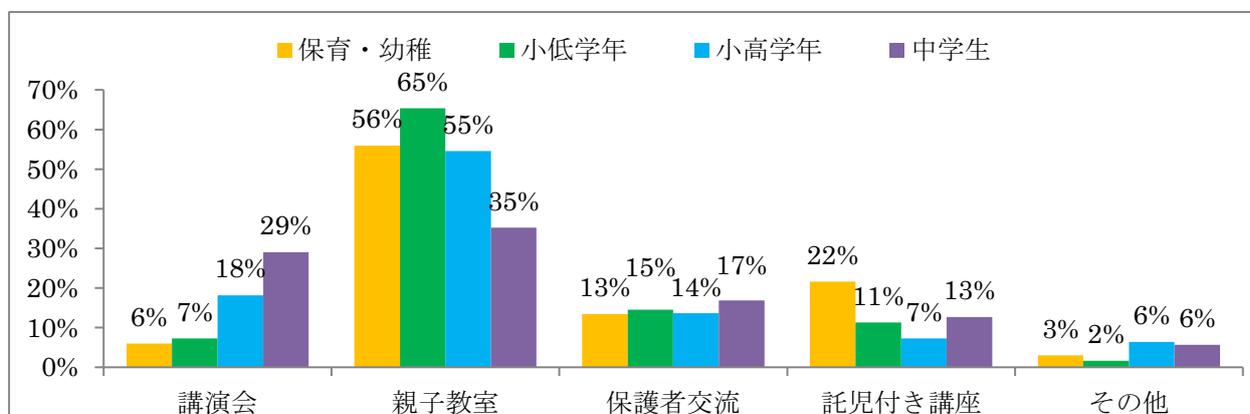
家庭教育力の低下が指摘されている中、改善したいと考える家庭より、改善したいと思わない家庭、考えた事はない家庭数の方が多くなります。

◎家庭教育について改善したい主な内容は何ですか。



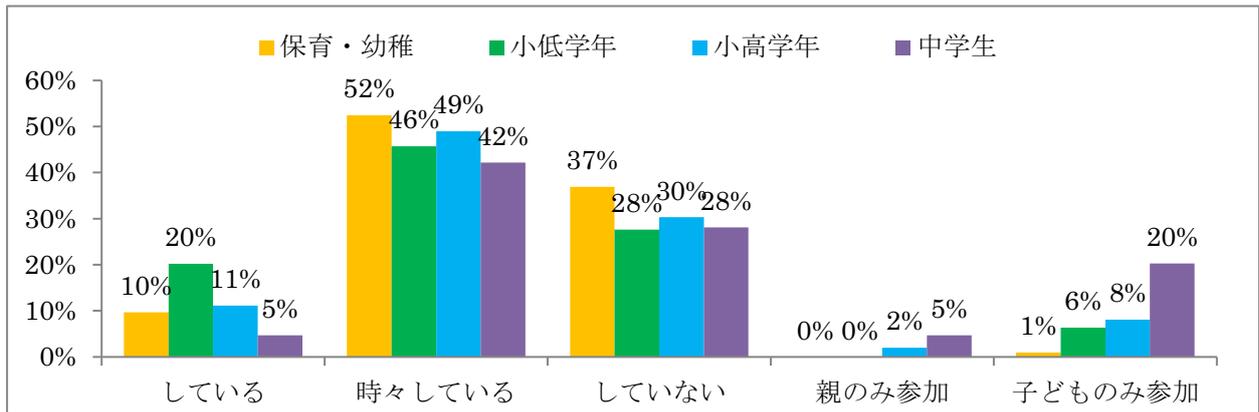
家庭で改善したい内容は、近年、指摘されている項目が多い事が伺えます。家庭だけでは改善出来ない、出来ないこともあり、地域の皆で子ども達を見守り育てる力が必要です。

◎家庭教育に関する講座等を開催する場合、どのような内容のものを希望しますか。



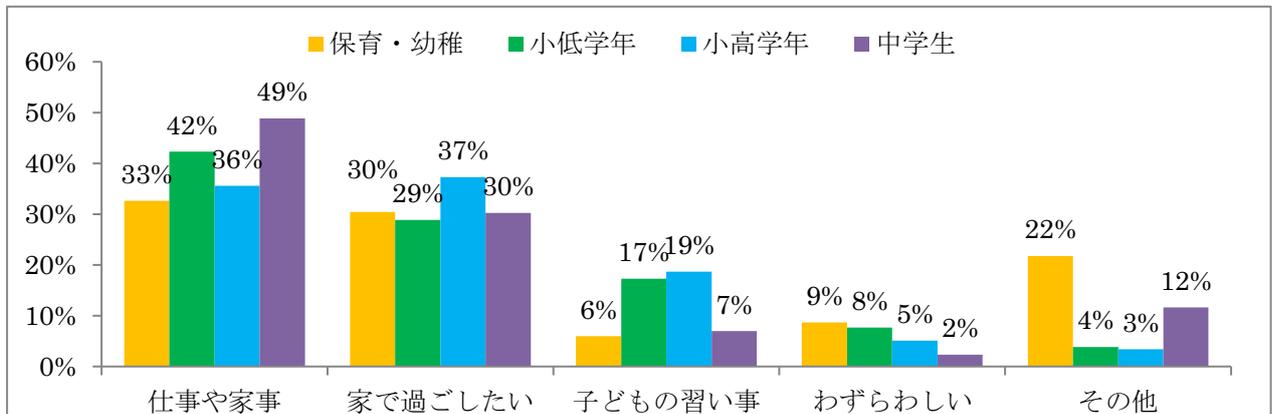
親子で何かを行う行事に興味がある事が伺えます。

◎地域の活動や催しに、親子で参加していますか。



現状で、子どもと地域との交流は盛んに行われていますが、そこに親の姿が見えないことがよく指摘されます。しかし、子どもにとっては家庭以外の場所で活動することによって、地域の人々との繋がりが強くなり、常識やルール、マナー等を学ぶことができます。

◎参加できない、その主な理由は何ですか。



仕事や家事、子どもの習い事などで地域行事に参加する時間や余裕がなくなっているのが現状ですが、個人主義の浸透や価値観の多様化等により、逆に異質なものとのつながりを避ける傾向にもあります。その結果、地域の教育力の低下につながっているのではないかと指摘されています。

## 第4章 教育ビジョン

### 第1部 学校教育

#### 1 基本理念

「越知を愛し世界に羽ばたく、心豊かでたくましく創造性に  
満ちた子どもの育成 ～人間力を育てる～」

変化が激しく将来の予測が困難な時代にあって、自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができる力が求められています。越知町は、町の発展は人づくりと捉え、21世紀に求められる人材を育成するため、越知町教育大綱・越知町教育振興基本計画に基づき、おち家（行政・学校・家庭・地域）が協働して、教育の振興を図ります。

#### 2 基本方針

「町の発展は“人づくり”から」と捉え、国の第3期教育振興基本計画を参酌し、第2期高知県教育振興基本計画、越知町総合振興計画等に基づき、学校教育施策を推進していきます。

#### 3 目指す子ども像

- ・生涯を通じて学ぶ姿勢を忘れず、主体的に自らの生き方を見出し、  
創り上げていこうとする意欲を持った子どもの育成
- ・あたたかい人間愛に満ち、自然や美しいものに感動する心、正義や  
公正を重んじる心を大切にする子どもの育成
- ・目まぐるしく変化していく社会の中で直面する様々な問題に  
立ち向かい、自ら未来を切り拓いてゆく、たくましさを持った  
子どもの育成

## 第2部 社会教育

### 1 基本理念

「人やものとの出会いを通じて学び、

人間力あふれるまちづくり ～おち暮らしの充実～」

近年の社会情勢の変化として、少子・高齢化は一層進み人口減少社会を迎える中、高度情報化の進展、グローバル化の進展、産業就業構造の変化、格差社会、家庭教育力・地域教育力の低下などが指摘されています。本町においても社会情勢の変化の影響は大きく、地域社会や家族の在り方の変容、価値観やライフスタイルの多様化により、一人ひとりのまちづくりへの参画がますます重要になってきています。

このような課題に適切に対応するため、生涯学習の観点に立ち、生涯の各時期に生じる課題や社会的に要請される現代的課題の学習に取り組むとともに、地域の教育力向上や地域活動の充実及び、社会教育関係職員の資質の向上に努め、町民の生涯学習を支援していきます。

### 2 基本方針

「町の発展は“人づくり”から」と捉え、国の第3期教育振興基本計画を参酌し、第2期高知県教育振興基本計画、越知町総合振興計画等に基づき、生涯学習(社会教育)施策を推進していきます。

### 3 目指す人づくり

- ・自ら学び、自ら考え、住民自治の意識を持ち、地域課題の解決に向けて取り組むことができる人づくり
- ・幼少期から高齢期までライフステージに応じた生きがいづくり
- ・豊かな自然・歴史・文化・体験を通じ豊かな心を育む環境づくり
- ・自分の暮らす地域に関心を持ち、地域コミュニティの一員となる絆づくり

# 第5章 取組の方向性

## 1 取組の方向性

基本理念を実現していくためには、家庭や地域、学校、教育行政など、教育等に携わるすべての人や組織が、それぞれの役割や責任を認識した上で、力を合わせて子どもたちを育成していくことが必要です。このため、教育等に携わる全ての人に日常的に意識していくための取組の方向性として、下記の5つを定めます。

### ◆ 5つの取組の方向性 ◆

- (1) チーム学校の構築
- (2) 厳しい環境にある子どもたちへの支援
- (3) 地域との連携・協働
- (4) 就学前教育の充実
- (5) 生涯学び続ける環境づくり

#### (1) チーム学校の構築

社会、生活環境が大きく変化し、学校や児童生徒を取り巻く問題も、多様化・複雑化しています。その中で、知・徳・体の向上を図るためには、学校の組織力を高めながら、個々の教員の力量のみに頼らず、教員同士がチームを組んで主体的に学び合うことにより組織的に授業力の向上や生徒指導の充実などを図るとともに、外部の専門家や地域の人材の力を活用して、学校の目標の実現や課題の解決を図るため、「チーム学校の構築」を推進します。また、学校支援体制の充実を図り、教員が子ども一人一人と向き合う時間の確保や健康の保持に努め、良好な職場環境をつくれます。

#### (2) 厳しい環境にある子どもたちへの支援

子どもの貧困、また虐待、また学力の未定着、不登校といった困難な状況は、現在大きな社会問題になっています。保護者の子育て力の向上を支援するとともに、小学校、中学校は、放課後学習による学習保障、準要保護制度による支援、高校・大学等は無利子の奨学金制度の活用など、切れ目のない対策を講じ、貧困の世代間連鎖を教育の力で断ち切ることを目指して、「厳しい環境にある子どもたちへの支援」を推進します。

#### (3) 地域との連携・協働

子どもたちの成長を支えていた家庭や地域の教育力は、核家族化や地域コミュニティの希薄化などに伴い低下しています。他方で、子どもたちにかかわる課題は多様化・複雑化しており、特に、家庭の貧困など厳しい環境にある子どもたちへの支援については、学校にプラットホームとしての役割が期待されているものの、学校だけの対応には限界があります。学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる仕組みである地域学校協働本部の活動の充実など、学校と「地域との連携・協働」のさらなる充実を図ります。

#### (4) 就学前教育の充実

子どもたちの知・徳・体の調和のとれた健全な成長のためには、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期である乳幼児期に、質の高い教育・保育を受けることが重要です。

このため、専門的で高度な知見に基づいた質の高い教育・保育の実践や、小学校以降の教育への接続を意識した取組の充実・強化など、「就学前教育の充実」を図ります。

#### (5) 生涯学び続ける環境づくり

社会・経済が急速に変化していくとともに、個人の生き方も多様化している中で、一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるようにするには、誰もが生涯にわたって学び続けられる環境や、スポーツなどに親しめる環境を整備していくことが重要です。また、個人の学びの効果がさまざまな場面で発揮されることで、地域や社会に好影響がもたらされます。こうした方向に沿って、「生涯学び続ける環境づくり」を推進します。

## 2 施策の基本方向

### (1) 「保幼小中連携教育」の推進

越知町の良さを生かし、0歳から15歳までの子どもたちの発達や学びを、円滑に接続する取組を連携、協働して行います。

### (2) 「学校教育」の充実・学校教育環境の整備

組織的、協働的に学校の教育目標の実現や課題解決に取り組む「チーム学校」の構築に取り組みます。特に、知・徳・体のバランスのとれた児童・生徒の育成を図ります。

「知・徳・体の育成すべき力」は、以下を指します。

- ◆知・・・基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育みます。
- ◆徳・・・社会の中で多様な人々と互いに尊重しあい、協調し、社会に参画しながら人としてより良く生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神など豊かな人間性・道徳性を育みます。
- ◆体・・・生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を培います。

### (3) おち家の「チーム学校」の推進

(2)のチーム学校を拡充し、学校と地域が一体となったおち家の「チーム学校」を推進し、学校目標の実現や課題解決のための支援を行います。

学校・家庭・地域の教育力を向上させ、町ぐるみで子どもを育てる風土を創ります。

### (4) 「就学前の子どもたち」の教育の充実・保育環境の整備

組織マネジメント力の強化や保育者の教育力の向上を図り、子どもの「生きる力」の基礎を育みます。また、保護者の子育て力の向上を重点的に支援します。

### (5) 学びと育ちを支える「子育て支援」の充実

- ◆家庭の教育力を補完するために、保護者への啓発活動や、厳しい環境にある子どもを学びの場へいざないます。また、保護者の経済的負担の軽減などを通して、貧困の世代間連鎖を教育の力で断ち切るように支援をします。

### (6) 「安全・安心」で質の高い教育環境の実現

- ◆自然災害や事件・事故の危険から子どもたちの命を守り抜くため、施設等の整備や防災教育を推進します。

### (7) 「生涯にわたって学び続ける」環境づくり

- ◆生涯にわたる学びを地域活動につなげる仕組みづくりを推進します。
  - 家庭教育支援の充実
  - 多様な学習機会の提供
  - 地域コミュニティづくりの推進
  - 読書活動の推進
  - 健康づくりと生涯スポーツの推進
  - 文化・芸術活動の推進
  - 郷土愛の育み
  - 横倉山自然の森博物館の魅力強化と活用